奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句



令和八年十月度　入賞句一覧　投句数　五百十二　句

一般の部

田中　青志　選

特選

獲物待つかまきり体揺らしつつ　　大垣市　大杉　すみゑ

蟷螂の斧とは、非力の代名詞。微弱な力量を顧みず強敵に対抗するはかない抵抗のたとえとされているもの。その己の非力を顧みることなく強者ぶってからだを揺すり、獲物を待つという哀れな態勢を憂う。

一つ灯のひとりひとりの夜長かな　　養老郡養老町　田中　紫香

灯火親しむの候、お互い干渉することなく、ひたすら己の嗜みを極める穏やかな夜長の風情。静かに明日の実りのためのエネルギーを充電する大人の時間を描く。

笙の音や拝殿前を秋の蝶　　福井県敦賀市　山田　美千代

笙の音に秋の蝶が舞い出たか、秋の蝶の舞に笙を奏でたか。いずれにしても両者相まみえての一句のように思えてくるよろしさがある。

秀逸

秋の雨二人静かに見つめけり　　埼玉県所沢市　坂井　傑

仰向けに命つきたる蝉愛し　　安八郡神戸町　早津　郁男

共に見た十五夜こよいひとり見る　　大垣市　種田　美弥子

四世代そろへば狭まき盆座敷　　大垣市　早笹　千恵子

とんぼ去り葉の揺れほどの重さかな　　本巣市　土川　みどり

扁額に「心」一文字小鳥来る　　東京都新宿区　花澤　ちいこ

上昇の刹那のありて桐一葉　　大垣市　村瀬　佐智子

路地の子の不意打ちにあふ水鉄砲　　三重県四日市市　後藤　允孝

燕帰る輪中の空の広きかな　　大垣市　長柄　明美

掛け軸に七言絶句月見の座　　滋賀県大津市　近江　菫花

入選

一般の部

秋暑し水の都に黒獅子旗	大垣市	河合　咲子
秋ゆくや夫と重ねし旅ひと日	養老郡養老町	佐藤　咲楽
鍋料理皆左手の若者よ	大垣市	稲川　英子
田が植わり何処も青い世界かな	大垣市	日比　昌子
梢より鴉の見張る墓参り	不破郡垂井町	竹嶋　富美子
はらはちぶたべずとも秋太るかな	東京都調布市	古川　りえ
門前の小気味よき音松手入れ	大垣市	立川　昌子
夜半の秋ポロンと鳴りぬオルゴール	大垣市	本田　勢津子
けふこそは庭に出て観よ後の月	大垣市	水谷　義雄
長々と伸びた南瓜の実なし蔓	大垣市	宮上　美濃留
月と影連れて歩きし三千歩	大垣市	大杉　すみゑ
老い二人しづかな暮し夕桜	大垣市	浅井　高男
飛行雲秋空しきる長さかな	滋賀県甲賀市	奥村　僚一
嬰児の頬もほんのりささげ飯	大垣市	岡田　幸子
風のまにゆるる裳裾や萩の花	神奈川県川崎市	立野　音思

選者吟

あの頃のあのことをふと秋の空　　青　志

